

# 業 務 処 理 要 領

この作業は、「建築物における衛生的環境の確保に関する法律施行規則」（昭和46年1月21日厚生省令第2号）（以下「施行規則」という。）第4条第2項並びに第4条の3の規定に基づき実施するものであり、作業は次により行うものとする。

1 作業内容、実施時期及び箇所等（前期7月～9月、後期1月～3月）

作業内容	本庁舎		議会庁舎		別館西棟	
	前期	後期	前期	後期	前期	後期
排水設備清掃	○	○	○	○	○	○
	別表1のとおり					
貯水槽清掃・点検	○		○		○	
	別表2のとおり					

- (1) 北海道庁本庁舎

(2) 北海道議会庁舎

(3) 北海道庁別館西棟庁舎
- 札幌市中央区北3条西6丁目

札幌市中央区北2条西6丁目

札幌市中央区北3条西7丁目

2 作業方法

<共通事項>

- (1) 各作業共、庁舎及び施設に加工することなく、既存のまま行うものとする。

(2) 各作業に要する洗浄用補給水、作業用電力（100W～／100V）は委託者の負担とする。

(3) 各作業に必要な機械及び消耗品は、受託者の負担とする。

(4) 特許使用、危険負担等は、受託者の責任において処理するものとする。

(5) 受託者は、次により作業を管理するものとする。

ア 現場の状況及び周囲の確認（特に床、排水等）

イ 工程表の作成及び提出

ウ 業務処理責任者は、「建築物環境衛生管理技術者免状」所有者とする。

エ 火気、電気及び酸欠等安全処置の確認

オ 漏水、機器作動及び調整等の確認

(6) 清掃により除去される付着物、異物及び土砂等を下水道に流出させることなく引き出すとともに、構外において適正に処理するものとする。

<個別事項>

◎ 排水設備清掃関係

- (1) 屋内雑排水及び汚水管の清掃

ア 作業時間は、承認を得た工程によるものとする。

イ 電動ワイヤー（3／8" 長さ20m以上のもの）、噴射式電動ワイヤー、高周波洗浄機、その他の必要な機械を用意すること。

- ウ 清掃方法
- (ア) 各フロアーの清掃口・排水口から洗浄水を流しながら電動ワイヤー或いは高周波洗浄機を用いて清掃する。
- (イ) 噴射式電動ワイヤーを用いて管内を消毒する。
- (ウ) 作業跡を清掃する。
- (2) 屋外排水及び汚水管の清掃
- ア 作業時間は、承認を得た工程によるものとする。
- イ 高圧洗浄機（圧力100kg/cm<sup>2</sup>以上、水量150ℓ/毎分以上のもの）、補給水タンク（2,000ℓ以上のもの）、トラックの他必要な機材を用意すること。
- ウ 清掃方法
- (ア) 高圧洗浄機を用い、下流より上流方向にマンホールの間隔毎に清掃する。
- (イ) 庁舎床下排水管及び汚水管も同様に清掃する。
- (ウ) マンホール内を洗浄清掃し、消毒及び消臭する。
- (エ) 管及びマンホール内の固形物、異物、土砂等は構外に搬出し適正に処理する。
- (3) ルーフドレン管の清掃
- ア 作業時間は、承認を得た工程によるものとする。
- イ 電動ワイヤー（3/4"～1" 長さ40m以上のもの及び3/8" 長さ20m以上のもの）の他、必要な機材を用意すること。
- ウ 清掃方法
- (ア) 3/8"～1/2" ワイヤーを用い、ルーフドレン管内及び第1エルボまでの付着物等を除去搬出する。
- (イ) 水を流しながら3/4"～1" ワイヤーを用いて清掃する。
- (ウ) 目皿、ドレーン周囲を清掃する。
- (エ) 管内を高圧洗浄機を用いて洗浄しながら異物等を引き出す。
- (4) 大便器及び小便器枝管の清掃
- ア 作業時間は、承認を得た工程によるものとする。
- イ ウォーターラム、コンプレッサー、電動ワイヤー（3/8" 20m）高周波洗浄機、尿石溶解剤その他必要な機材を用意すること。
- ウ 清掃方法
- (ア) 大便器内に水を流しながら、高周波洗浄機或いはウォーターラムを用いて清掃する。
- (イ) 小便器枝管の清掃は、横引枝管に水を流しながら、高周波洗浄機あるいは電動ワイヤーを用いて清掃の後、便器Uトラップに尿石溶解剤を注入し、尿石溶解後（ア）同様の方法で清掃する。
- (ウ) 便器取付部等の漏水等を確認する。
- (5) 洗面器、茶殻捨器、給湯所流し及び掃除流しの清掃
- ア 作業時間は、承認を得た工程によるものとする。
- イ 電動ワイヤー（3/8" 20m）、ドリルワイヤー、ウォーターラムコンプレッサー、高周波洗浄機、その他必要な機材を用意すること。
- ウ 清掃方法
- (4)に準ずるが、給湯室流しについては、清掃後、消毒及び消臭を必ず行うものとする。
- (6) 雑排水槽、汚水槽及びグリスピットの清掃
- ア 作業時間は、承認を得た工程によるものとする。
- イ 必要な機材の他、中継ポンプを必要量用意すること。
- ウ 清掃方法
- (ア) 揚水ポンプを用いてサクションまで排水する。
- (イ) 槽内を洗浄機（40ℓ～60ℓ/毎分水量、水压30～40kg/cm<sup>2</sup>）で洗浄し、汚水を排水する。
- (ウ) 溝内を消毒及び消臭する（ポンプ及びパイプ等に悪影響を与える薬剤等及び苛性ソーダー系統の薬剤の使用を禁ずる）。

#### 受水槽の清掃

ア 作業時間は、承認を得た工程によるものとする。

#### イ 清掃方法

- (ア) 揚水ポンプでフード弁まで吸い上げる。
- (イ) 残水を移動水中ポンプ（1,000ℓ／毎分の揚水能力を要する）で排水する。
- (ウ) 周壁、底部、パイプ類を水量30～80ℓ／分、水圧30～50kg／cm<sup>2</sup>で洗浄する。
- (エ) 土砂等を庁舎外へ搬出する。
- (オ) 洗浄後底部拭掃、汚水を排水する。
- (カ) 槽内消毒（次亜塩素酸ナトリウム50～100PPM濃度による）
- (キ) 槽内再水洗い及び排水
- (ク) 槽内再消毒（消毒後作業員は、槽内に立ち入らない）
- (ケ) 消毒後30分間放置して水張実施
- (コ) 揚水ポンプ運転、弁類の切換
- (サ) 周囲の清掃
- (シ) 異物侵入の防止処置点検

#### ウ 貯水槽点検

札幌市の条例により点検を行うこと。

#### エ その他

作業衣及び使用器具は、貯水槽の掃除専用のものとする。

また、作業実施前に作業衣及び使用器具を消毒すること。

### 3 報 告

受託者は、排水設備清掃業務終了後、各対象設備の主たる部分毎に記録写真を添付し、委託者に提出すること。

また、貯水槽清掃業務終了後、別紙様式第1・2号の報告書に実施結果を記入し、各槽毎に清掃前後の写真を添付し、委託者に提出すること。

### 4 その他

清掃業務で発生する汚泥等の産業廃棄物等は、道が別途発注する収集運搬及び処分業務の受託者が処理するものとし、受託者は当該事業者と連絡を密にし、相互に業務に遺漏のないようにすること。